

京田辺市が目指す社会教育のあり方について
【ご報告】

京田辺市社会教育委員会議

はじめに

社会教育の発展のためには地域の特徴に合わせた取組が必要です。社会教育委員会議では、京田辺市の社会教育における課題と、今後目指すべき社会教育について意見交換を行ってきました。

まず、社会教育委員ひとりひとりが京田辺市で今後実現すべき社会教育への思いを提案し、類型化したそれぞれについて協議を行った中で「コーディネーターの発掘」、「地域と同志社との連携」、「地域住民同士のつながり強化」の3つが重点課題であるという結論に至っています。

社会教育委員会議での協議内容

社会教育委員の社会教育に対する思いを総括した上で、京田辺市で今後目指すべき社会教育について、3つに分類しています。

① 地域と同志社との連携

同志社と京田辺市は、今年度で連携協力に関する協定を締結して20周年になります。「大学のあるまち」として教育、文化、福祉、地場産業、まちづくり等の分野で相互に協力を続けていただいている、地域社会の発展や人材育成のために様々な取組を行っていただいている。

社会教育委員会議から、社会教育の推進に係る京田辺市と同志社との連携についてまとめたとおり、学生が地域で学び、市民と交流を行うなど同志社と京田辺市とが継続的に地域と学生が関わる機会の提供を行っていくべきと考えます。

② 地域コーディネーターを発掘し、育てること

今後、よりよい学校教育を通じてより良い社会を創るという目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を児童生徒に育む社会に開かれた教育課程という理念の実現に向け、地域とともににある学校とともに、学校を核とする地域づくりを進めることが重要になります。

地域と学校や地域住民同士をつなぐ中心となるコーディネーター人材を発掘し、育成することは、地域の特徴に応じた社会教育の課題解決や充実に向け不可欠と考えられます。

そのために、小学校区単位で区・自治会役員、PTA役員等地域の有力人材を集め定期的な交流の場を設けることで人材の把握に努めるとともに、現職だけでなく地域貢献意識の高い人に声掛けを行うなどにより、地域活動に積極的な人を探し出すなど人材の発掘を進めるべきと考えます。

また、地域コーディネーターに必要な能力や知識の資料化を行い、講習会や交流会を行うことで地域コーディネーターの質の向上を図っていただくとともに、ボランティアとして活動していただくのではなく、教育委員会が委嘱・任用したり、報酬を支払ったりしていただくことで意識の高い人材の確保をしていくべきと考えます。

③ 地域住民同士のつながり強化

京田辺市内の各区・自治会では、地域行事をはじめとした地域住民同士の交流が行われています。しかしながら、中高生や現役世代の地域活動への参加率はほかの世代と比較して少ないと感じています。

新興住宅地、旧村地域など市内それぞれの地域には特徴があり、社会教育に対する思いは地域によって異なります。若い世代や大学生など、地域活動への参加者が少ない地域でも、地域行事に工夫をすることで地域活動に取り込むことができる方法があるのではないかと考えます。

例えば、防災の観点における近隣住民とのつながりの重要性など区・自治会加入のメリットを京田辺市が周知することが重要だと考えます。

また、若い世代、学生など地域住民と関わりの薄い世代や地域コミュニティと一定の距離を置きたい住民に対して、参加することにメリットがある行事を企画することや声掛けを行うことで、地域コミュニティに参加しない人を参加させる仕組みづくりをしていくべきと考えます。

学校行事など子どもの学びの場に地域住民が関わることで学校教育を通じてより良い社会を作るという目標を学校と地域社会とが共有し、連携・協働しながら新しい時代に求められる資質や能力を児童生徒に育むことで学校を核とする地域づくりの推進していくべきと考えます。

おわりに

京田辺市社会教育委員会議では、より多くの市民に対して幅広い知識、教養及び実践力を身に付ける機会の創出、学びをとおした市民の生きがいやつながりの向上、地域住民同士のつながりを深め、地域活性化をすることによる魅力的なまちづくり、地域の課題解決力の向上、こども達の体験学習機会を増やすとともに、地域とのつながりを形成し、地域活動意識を向上させることが京田辺市のより良い社会教育の実現のために必要だと考えています。

目指す社会教育に向けて、今後も引き続き協議をしていきたいと考えています。

これまでの協議資料

京田辺市の社会教育について ご意見の集約	P 6
京田辺市の社会教育について ご意見の集約詳細	P 7～P 11
京田辺市の社会教育について 各委員の意見総括	P 12
京田辺市が目指す社会教育とその実現方法について (要約)	P 13～P 19
京田辺市と同志社との社会教育のあり方について	P 20～P 30
社会教育の推進に係る京田辺市と同志社との連携について	P 31～P 32

京田辺市の社会教育について ご意見の集約

各委員からのご意見を、目的、手段別に分類して次のとおりまとめました。

目的	手段・内容
1 教育の質向上	<ul style="list-style-type: none"> ①大学や企業などの社会インフラの活用 ②中間層（若者世代）に魅力あるもの、企業×中間層といったイベント等の企画 ③団塊の世代に市内の専門家によるより高度な講座の実施 ④部局の枠を超えた企画部門を設置し、タイムリーな講座など魅力的な企画の実施 ⑤参加する人が充実感を得られ持続可能な取り組みの実施
2 学習機会の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ①社会教育と防災、福祉等の他部局が事務担当者レベルで連携強化 ②市内団体や各部局の講座・イベントについて各部局が連携を図り情報発信を強化 ③講座等を魅力的で世代間交流ができるものへの見直し
3 福祉と社会教育	<ul style="list-style-type: none"> ①高齢者の新たな価値観づくりに繋がる、魅力的な講座、学びを活かせる場、児童との繋がり、福祉等他部局と社会教育の連携、デジタル格差解消 ②ヤングケアラー問題など、福祉の視点を取り入れた社会教育と学校教育の連携
4 施設・体制 (学習機会の拡大)	<ul style="list-style-type: none"> ①市の貴重な文化財を展示する博物館の設置 ②社会教育施設の増加 ③現在の2倍程度の規模のある中央公民館の設置 ④オープンな会場を創設し、参加型のイベントや市民自らの企画など魅力的な企画の実施 ⑤社会教育施設等の利用料無料化 ⑥社会教育委員の協議機会の増加 ⑦社会教育・公民館職員の増員と専門化
5 地域活性化	<ul style="list-style-type: none"> ①地域のキーパーソン発掘、指導者の質の向上 ②学校外でのスポーツの場の提供 ③地区公民館をベースにした指導者等の組織化 ④地区公民館に、施設管理や事業の支援を行う常駐職員の配置 ⑤南部まちづくりセンターの効果的な活用 ⑥地域の実情に合わせたきめ細かい教育プログラムの実施
6 学校と社会教育 の連携 (主に小学校区)	<ul style="list-style-type: none"> ①コーディネーターが地域人材を発掘し、学校での実技指導に活用 ②学校運営協議会や地域学校協働本部の設置とコーディネーターの配置 ③社会教育と学校教育との連携のためのコーディネーター設置 ④学校と地域との連携強化 ⑤関係者の目線で地域の資源を発掘

京田辺市の社会教育について ご意見の集約詳細

1 教育の質向上

高校生、大学生、一般企業人、団塊の世代などを対象とし、大学、企業、エキスパート市民と連携するなどして、高度な教育や世間で話題になっている内容を取り入れるなど、魅力的な教育プログラムを提供する

	手段・内容	提案
①	大学や企業などの社会インフラの活用	<p>社会インフラの活用 市には、中央公民館を核とした地域公民館や住民センターや中央図書館及び分室など、多少の偏在はあるものの、公的な社会インフラが充実しており、また、同志社大学等があることも強みであり、さらに、様々な企業が活動をしている。</p> <p>社会教育施設だけでなく大学、企業等が提供する学習機会の場の拡大が求められる。今後の「学びの場」とは、公民館などの社会教育施設のみではなく、大学、企業等が提供する社会におけるあらゆるコンテンツを「学びの場」として捉えることが重要である。</p>
②	中間層（若者世代）に魅力あるもの、企業×中間層といったイベント等の企画	<p>目的・青少年を含む中間層への社会教育機会向上 背景 教育活動の対象は、小中学生とその保護者、高齢者が中心となり、高校生以上の中間層と市の関係が希薄。結果、高校進学後、活動の中心が市外となり、市への愛着が薄れている。ベッドタウンとしてしか関わらない。</p> <p>概要（具体的な方策など）・市内在住、通学の大学生や高校生など中間層にとって魅力的なイベントや教育活動を活性化し、中間層の活動拠点や居場所を市内にシフトさせ、市への愛着向上を図る。さらに年代を超えた交流・連携イベント（子ども×高齢者でなく、企業人×高校生、特定の専門領域に特化など）を開催し、中間層と地域（市）との繋がりをより強固にする。</p>
③	団塊の世代に市内の専門家によるより高度な講座の実施	団塊の世代が高齢となって来るが、今後はますます高学歴化が進み、高い専門性のプログラムも必要となってくる。同志社大学や京田辺市に住いされている専門家によるプログラムの開発なども考えられる。
④	部局の枠を超えた企画部門を設置し、タイムリーな講座など魅力的な企画の実施	<p>背景 教育内容が前年踏襲となることが多く、時代変化に対応した企画がない。</p> <p>概要（具体的な方策など）部局の枠を超えて、魅力的な講師やゲストなど、タイムリーな企画を行う専任部門を設立し、内容充実を図るとともに、常に魅力的イベントを開催することで、人の流れを生み出し、施設利用率向上とともに、市民の社会教育機会の増加を図る。数年後には、市民自らの企画を促進。</p>
⑤	参加する人が充実感を得られ持続可能な取り組みの実施	<p>市は、人口は右肩上がりとなっている市として今後展開することが望ましい社会教育とは何か？</p> <p>少子高齢化が進み、生産年齢人口の減少が続いている、「人生100年時代」「70歳定年」とともに、「生涯学習社会の実現」が語られることが多い。それはリカレント教育の推進や高齢者向け社会教育事業の充実の必要性を意味する。</p> <p>生涯学習社会とは、「人々が、生涯のいつでも、自由に学習機会を選択し学ぶことができ、その成果が適切に評価される社会」とされている。社会教育委員の視点で考えると、あらゆる年代において学びが保証され、学びで得たものを活かせることが個人や社会にとっても大切なこと、そして、社会教育の役割としても、学習機会の提供や地域社会を活性化し人がつながる地域づくりが求められているということを再認識した。学校教育、家庭教育と連携した子どもたちへの支援の充実も、市にとって最優先事項であるが、社会教育推進のため行政が取り組むべき課題は、ハコモノ整備から子育て支援の制度設計等々まで多岐にわたる。更にSDGsやダイバーシティ&インクルージョンが当たり前となる社会において、それらの課題と連動した社会教育事業がサステイナブルに展開されるための環境整備、参加する人々や関係者すべてが楽しみ、喜び、充実感を得られるような取組が欠かせない。</p>

2 学習機会の拡大

各部局、各団体の連携や交流を高め教育内容の質向上とともに市民への情報提供機会を拡大させる。

また各事業開催情報を分かりやすく整理し、発信力を強化することで、学習機会の拡大を図る

	手段・内容	提案
①	社会教育と防災、福祉等の他部局が事務担当者レベルで連携強化	4 市長部局との連携 社会教育を充実し地域の課題解決を進めていくためには、教育委員会と、福祉・医療、防災・防犯、環境保全、まちづくり・地域振興等を所管する市長部局の連携が必要である。 このため、総合教育会議以外においても、実務者レベルで社会教育担当者と地域政策や福祉等の担当者が情報交換等を行うことも有意義である。
②	市内団体や各部局の講座・イベントについて各部局が連携を図り情報発信を強化	目的・発信強化と内容充実により、市民の学習機会の拡大加と質向上背景 各団体等が様々な社会教育活動を行っているが、その利用は一部に限られている。主催側が個別に発信を行っており、開催情報が散在し、必要な情報を入手することが困難。主催者や各団体間での情報共有があまりなされていない。 学習意欲の高い市民は一部であり、教育の底上げが行えていない。 概要（具体的な方策など） ・市内各団体等の、社会教育イベントを総括・整理し、分野、対象、時期、場所、内容など様々な視点から、情報共有を行い、内容の精査・充実を図っていく。Web/SNS/広報/掲示板などの発信の主体を統括部門で情報を集約し、強化していく（全ての開催情報が閲覧可能、特定のテーマや日時、場所に特化した情報が取得可能など）
③	講座等を魅力的に世代間交流ができるものへの見直し	学びを通して世代間、地域間のつながりを 第3次京田辺市生涯学習推進基本計画の基本理念「学びを広げ 未来を拓くまち 京田辺」に基づいた社会教育を進めていく。 誰もが参加しやすく気軽に学ぶことができる環境づくり 各教室や講座等の見直しをする ・マンネリにならない ・興味、関心がある ・世代間、地域間の交流ができる（連携・協働）

3 福祉と社会教育

生きがいや地域での新たな縁の創出など地域の課題解決に繋がる福祉の視点を取り入れた社会教育の充実を図る

	手段・内容	提案
①	高齢者の新たな価値観づくりに繋がる、魅力的な講座、学びを活かせる場、児童との繋がり、福祉等他部局と社会教育の連携、デジタル格差解消	「生きがいの創出」「地域での新たな縁」「孤立防止」に繋がる新たな高齢者観や価値観を創り出す社会教育の在り方。 ①個人個人の学びや知りたいという意欲を出させる講座の検討 ②自ら培った知識や経験を生かせる場づくり ③学校教育の中での子ども達との繋がりがもてる場や時間づくりの拡充 ④健康推進課や民生など他機関との繋がり ⑤インターネットに不慣れな方たちの情報格差、デジタル格差の課題
②	ヤングケアラー問題など、福祉の視点を取り入れた社会教育と学校教育の連携	所得格差が広がり、ヤングケアラーと呼ばれる子どもが出現しており、学社連携にも従来とは異なる要素が入ってくると考える。学校教育と福祉の視点を取り入れ、地域の問題解決にあたる社会教育の在り方が重要になってくる。

4 施設・体制（学習機会の拡大）

博物館など様々な目的の施設や、収容能力やオープン施設など利便性の高い施設を整備することで、学習機会の拡大や質の向上を図る

社会教育関連の職員や委員を拡充させることで、よりよい社会教育環境を構築させる

	手段・内容	提案
①	市の貴重な文化財を展示する博物館の設置	博物館の設置 市は貴重な文化財を豊富に有しており、これらを生かして教養の向上、地域への理解と自覚を促し、それらが市民の誇りとなり、延いては地域の発展振興をつくりだす。そのための中心的拠点となる博物館の設置を期待したい。
②	社会教育施設の増加	社会教育の中の芸術文化活動を考えると、中央公民館の使用には不便を感じる。 公民館主催の水彩画教室から派生した水彩画サークル活動の場合、月1回の抽選により部屋が決まるが、水道のない部屋になったり、小さい部屋2室しか確保できず、分かれて活動となる場合もある。さらに、空きがない場合は、北部住民センターなども利用するが、それでも無理なときは休会となる。 芸術や文化的な活動を支える施設が人口規模に対して見合わなくなってきた。施設が充実すると更なる諸活動の拡充、望ましい社会教育が展開する余地が生まれてくるのでは。
③	現在の2倍程度の規模のある中央公民館の設置	中央公民館の改築 現在の中央公民館は市制施行以前のもので、人口7万の市としては狭小にすぎる。本格的な、現在の倍以上の規模のものが欲しい。建設当時は、山城地域の様々な行事に活用されたと聞く。山城の中心都市として、相応しいものを期待したい。
④	オープンな会場を創設し、参加型のイベントや市民自らの企画など魅力的な企画の実施	背景 学習意欲の高い市民は一部であり、教育の底上げが行えていない。 概要（具体的な方策など） ・文化施設にオープンな会場を創設し、参加者限定不要のセミナーやワークショップ等を誘致する。参加ハードルを下げ、通りがかりの市民を取り入れるなど、広く市民を社会教育イベントに巻き込んでいく。セミナー会場は簡易な懇親会に対応可能にし、市民の交流を促進、学習仲間広げることで、持続的な学習意欲の向上を図る。
⑤	社会教育施設等の利用料無料化	施設利用の無償化 公民館等の社会教育施設は、図書館と同様無料にして欲しい。特に市民には無料で開放すべき。現在、社会教育関係団体は無料だが、これはかつて当該団体が地域のほぼ全市民を網羅していたからである。しかし現在は市民全体を代表するような性格はなくなっており、それなら全ての利用者に同じ原則を適用すべき。
⑥	社会教育委員の協議機会の増加	社会教育委員の会議の活性化 社会教育委員は個人として任命されるが、実際には会議体としての役割が大きい。会議体としての任務を果たすためには委員間の日常的接觸、会話が必要。せめて、月1回程度以上、意見交換して今後の方向性を見定める必要がある。それにより市が直面している社会教育の課題などに対応することができるし、教育委員会からの諮問にも応じることができる。
⑦	社会教育・公民館職員の増員と専門化	社会教育・公民館職員の増員と専門職化（勤務の長期化） 上記幾つかの課題のためには職員の増員と専門職化が必要である。短期間で異動しない、一定期間在職する専門職が不可欠となる。

5 地域活性化

地域人材の有力者を発掘、組織化し、地域レベルでの教育力、課題解決力向上を図る

各地域人材の有力者と市社会教育委員との交流機会を拡大させ、より地域の声を社会教育行政に反映させる

各地域の公民館や住民センターを活用し、各地域レベルでの学習機会の拡大を図る

手段・内容	提案
① 地域のキーパーソン発掘、指導者の質の向上	<p>目的・社会教育の基盤となる強い地域を作り、市と地域との連携強化背景 多くの団体があるが、社会教育委員の支持母体はその一部に過ぎず、すべての市民の声を把握していない。地域を支える人材が不足している。地域には様々な活動家やキーパーソン、元自治会やPTA役員など人材が眠っており、十分に活かされていない。</p> <p>概要（具体的な方策など）・市内の社会教育団体や指導者や地域のキーパーソンを洗い出し、縦横の連携を深め、地域の課題や情報交換などをしていく。数年後には、社会教育指導者研修会、交流会などを実施し、指導者と市との連携を強固なものにする。</p>
② 学校外でのスポーツの場の提供	<p>学校及び地域における全世代でのスポーツ機会の充実</p> <p>市においては、近隣市町村と比較し、人口増が今後10年近くは続く見込であり、「緑豊かで健康な文化田園都市」を遵守し、人口増に見合った街づくりや、コミュニティーを形成していく。</p> <p>人口増が続く中も、地域のコミュニティーは減少し、核家族化が増加している。その為、学校や地域における集まりの場を提供する事で、生涯においての楽しみの場を提供し、健康や体力の増進に寄与したい。</p> <p>しかし、コロナ禍の影響により一旦、中止や消滅した場を再開する為には、新たな地域の役割を担う方々が経験されていない場合もあり、困難ではあるが、重要な課題として今後検討が必要。</p> <p>その為、各種団体との交流の場を設け、また5つの地域との連携を深めていきたい。</p> <p>社会体育協会は、学校外のスポーツの場の提供と、地域での生涯スポーツの場を拡大提供することが望ましく、「だれもが、いつでも、どこでも、いつまでも」身近にスポーツ・レクリエーション活動に親しみ、健康で豊かな人生を築き、生きがいと喜びを高めることを目的に取り組む。</p>
③ 地区公民館をベースにした指導者等の組織化	<p>目的・社会教育の基盤となる強い地域を作り、市と地域との連携強化背景 地区公民館は集会スペースとしてのみ使用され、地域の情報集約や、社会教育の基盤としては活かしきれていない。</p> <p>概要（具体的な方策など）地域において、キーパーソンや有力メンバーを中心に、眠っている有力者等を掘り起こし、地区公民館をベースに組織化することで、地域課題対策や社会教育活動推進を図り、地域の繋がりを強くし、社会教育力を高めていく。</p>
④ 地区公民館に、施設管理や事業の支援を行う常駐職員の配置	<p>区・自治会公民館の活用</p> <p>市に、多数存在している地域公民館の活用を期待したい。そのために、各公民館に職員を常駐させ、管理運営のもとに、人々が気楽に集まる雰囲気ができれば、連帯感が上がり、様々な行事や活動が活発化する。</p>
⑤ 南部まちづくりセンターの効果的な活用	<p>学びを通して世代間、地域間のつながりを</p> <p>第3次京田辺市生涯学習推進基本計画の基本理念「学びを広げ 未来を拓くまち 京田辺」に基づいた社会教育を進めていく。</p> <p>学びの拠点づくり、南部まちづくりセンターの活用</p>
⑥ 地域の実情に合わせたきめ細かい教育プログラムの実施	<p>少子高齢化が進むと予想されるが、地域によって必要とされる社会教育の内容が異なる。新しい開発地域では、子育てや保育に关心があり、高齢者地域では、生きがいや健康などが関心となるように、地域によってきめ細かいプログラムが必要となる。さらに、福祉の視点も必要となってくる。</p>

6 学校と社会教育の連携（主に小学校区）

地域の有力人材を取り込むなどして、学校運営に地域の意見を取り入れる

コーディネータを任命するなどして、地域人材の活用を活性化し、子どもの社会教育の質の向上と、地域人材の活躍機会を拡大する。

部活動やスポーツなど積極的に地域人材の活用を図り、地域人材の活躍機会の拡大と子どもたちのスポーツや部活動機会を拡大させる。

	手段・内容	提案
①	コーディネーターが地域人材を発掘し、学校での実技指導に活用	<p>学校支援ボランティアを地域の子どもたちへ有能な人材が地域に眠ってしまっている。その力を子どもの学びに活用する。学校と協働で、生活科や家庭科、図画工作などの実技指導をお願いして、共に学び合うことを目指す。</p> <p>これにより、教員の負担軽減にもなる。しかし、授業の内容や時間の調整等多くの困難もあるが、地域と学校を繋ぐコーディネーター役が必須。退職されている元教員などへの声かけ等、実現に向けた取り組みが必要。</p>
②	学校運営協議会や地域学校協働本部の設置とコーディネーターの配置	<p>よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る</p> <p>“よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る”という目標を学校と社会とが共有し、連携・協働しながら、「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、「地域とともにある学校」「学校を核とする地域づくり」が重要である。</p> <p>学校教育と社会教育の連携が大切であり、地域と学校を結ぶコーディネーター機能を高める「学校運営協議会」の設置や「地域学校協働本部」の整備が求められているが、これらの推進にネックとなっているのが、地域と学校の調整を行う「地域コーディネーター」の配置である。配置の促進や、その資質向上の研修や新たな人材育成など、持続可能な運営が期待されている。</p>
③	社会教育と学校教育との連携のためのコーディネーター設置	<p>社会教育委員は、学校教育の大きな円の中のひとつとして役割を果たすべきだが、社会教育と学校の連携が図れていない。</p> <p>各校に設けられている学校運営協議会は、学校教育に限られており、社会教育が果たすべき役割は一顧だにされていない。</p> <p>地域との連携を図ろうとすれば、学校現場がもっと社会教育の現場に接近しなくてはならない。</p> <p>社会教育委員会議を重ねて、できる限り実践できる企画を考案していく必要がある。そのためには、コーディネーター役を決めるなどして企画考案したものをグループ討議し、トライアンドエラーでもよいので実践してみてもよい。</p>
④	学校と地域との連携強化	<p>部活動地域移行への対応</p> <p>スポーツ庁の有識者会議が、部活動地域移行について提言した。休日の運動部の活動は、教師ではなく、地域のスポーツクラブなどが指導する。文化系についても、近く同様の改革を求める見通しである。</p> <p>しかし、課題が山積している。まず、さまざまな競技・文化的活動の指導者を確保ができない。しかも、教師と同じように、生徒に配慮しながら、適切に指導するのは、想像以上に難しい。</p> <p>さらに、これまで部活動は、顧問が献身的に支えてきたがこれを民間に委託する報酬は誰が負担するのか、会費など家庭の負担が必要かといった問題が生じる。</p> <p>これらは、社会教育・社会体育等が連携し合うことで、解決の糸口になるのではと期待している。</p>
⑤	関係者の目線で地域の資源を発掘	<p>社会教育は地域の学習活動の中に子どもたちを誘い出す教育。</p> <p>社会教育は今何をすればよいか。人々の幸せな暮らしが持続されるよう地域課題を解決する。そのための資源をどのように発掘するのか、そのためには関係者の目線が大事。学んで考え、地域の人々と関係者と議論する、やってみる、振り返ること。考えつつ動いてみることが大事。</p>

京田辺市の社会教育について 各委員の意見総括

目的 (目指す社会)	問題点	対策案 (各委員からの提案)
1 ・より多くの市民に対して幅広い知識、教養及び実践力を身に付ける機会を提供する。 ・学びを通して市民の生きがいやつながりの向上を図る。	(1)一部の市民しか学習の機会を得ていない。特に現役世代や学生の参加率が低い。	①地区公民館でのイベント開催を強化する。 ②講義など手段の一部デジタル化し、学習の機会を増大する。
	(2)イベント、セミナーなどの開催情報が、市民に十分周知されていない。	①各部門、団体で連携協力するなど、企画や発信の強化と情報共有を行う。 ②高齢者向けデジタル教育を強化する。
	(3)多くの市民が参加したくなるような企画が提供できていない。	①専門レベルの企画の定期開催する。 ②特に若い世代のニーズ把握し、市・地域行事を企画する。 ③企画や動員、講師手配などを専任するコーディネーターが必要 ④多くの市民が参加しやすいスペースと企画が必要
	(4)市内の会議室・ホールの絶対数が不足している。また、数百人規模のホールがない。	①市民ニーズの把握に加え、どう使うべきかの観点から必要となる施設の検討 ②民間団体とも連携し、飲食店、団体専用スペースなど含め、人の流れを作る取組と情報共有が必要
2 ・地域住民のつながりを強め、地域活性化をすることで魅力的なまちづくりを図る。 ・地域の課題解決力を向上させる。	(1)区・自治会、公民館活動、学校連携などにおける地域の核となる人材の不足	①区・自治会、PTA役員、教員のOBなど地域の有力人材を発掘する。 ②地区公民館に専属コーディネーターを配置し、企画を強化する。
	(2)現役世代の地域活動への参加がほとんどない。	①現役世代の地域参加を促進する組織の立上げや現役世代を中心に活動する組織の活性化を図り、横のつながりを構築する。 ②若い世代が多く参加する美化活動や学校行事などと連携し、地域参加のきっかけ作りを行う。
3 ・子どもたちの体験学習機会を増やすとともに、地域とのつながりを形成し、地域活動意識を向上させる。	(1)子どもたちの社会教育を図る上で、地域、学校、社会教育の連携不足	①元教員に学校と地域のパイプ役になってもらう等、連携を強化する。 ②教員増員が急務。教員負担を軽減し、教員の地域意識向上を図る。
	(2)地域を取りまとめるコーディネーター人材の不足	①コーディネーター人材の発掘に加え、スキル教育を実施する。
	(3)ボランティアベースでの地域活動の維持が困難。また、教員不足により教員の負担も限界	①地域人材を中心に、必要なところに専任者を任命する。

① コーディネーターの発掘

ア コーディネーターの発掘する具体案

1	小学校区（自治会単位）で、自治会役員、PTA 役員、教員、見守り隊はじめ地域有力人材を集め、研修や地域課題を協議する会を開催する。地域有力人材の定期的な交流や新たな連携の場を作るとともに、各地域において、有力人材の相互把握を容易にする。現職の肩書にとらわれず、地域貢献意識の高い人材を集めることが望ましい。
2	文化協会は、組織に「文化委員」という地域の文化活動をまとめる仕事がある。
3	各種資格所持者にコーディネーター登録制度を設け、一般広報する。
4	各種団体等及びその中核となっている人を記し、把握するとわかりやすくなる。その上で、学校教育との連携であれば、その事案に適した団体、代表者等と具体的に話を進めるとともに学び育つことが出来るのではないか。
5	ボランティアに頼るだけでなく、労働に応じた報酬を支払うなど、仕事として働いてもらうことを視野に入れる必要がある。
6	地域の中にコーディネーターに対してどのようなニーズがあるか、また、コーディネーターに対する期待がどのようなものか調査すると、求めることが具体化するのではないか。
7	教育委員会が委嘱・任用し、仕事の内容に見合った人を募集すれば、応募する人があるのではないか。 100%ボランティアでやる人の発掘は不可能ではないか。
8	地域活動に積極的な人を探し出して、その人を核として周囲の人々に声をかけてもらう。 わずかでもよいので報酬があると、市や教育委員会の本気度が理解されるのではないか。
9	教育・経済・歴史・文学・健康等の領域に分けて、読書会などでお世話していただけるコーディネーターを公募してはどうか。 市内在住の各分野で専門的な著書を持っている人を発掘して、こちらから依頼してはどうか。
10	各自治会のサークル等の代表者、自治会役員、民生委員等で意見交換会を行い、人財を見つける。 また、コーディネーターが地方自治を高める方向に有益かどうかも検討する。

【例】

- ・小学校区（自治会単位）での研修や地域課題を協議する会の開催
- ・コーディネーター登録制度を設ける。
- ・各種団体等及びその中核となっている人の情報を集める。
- ・コーディネーターに求めることを具体化する。
- ・コーディネーターを委嘱・任用し、報酬を払う。
- ・コーディネーターを公募する。
- ・地域活動の核となる人に声掛けをしてもらう。
- ・地域で意見交換を行い、コーディネーターを見つける。

イ コーディネーターを育てる具体案

1	何を繋ぐコーディネーターが必要か、どの様な役割を担うべきかを洗い出し明確化し、そのために必要なスキルやノウハウ等の情報を集め、資料化する。それにより、コーディネーター対象者の学習を容易にする。 地域人材交流会などにおいて、他の地域の先行事例の紹介や、地域内での互いの活動や課題共有などを行い、交流・人脈を深めると共に学びを提供する。
2	地域の手伝いをしている人又は自治会の主要な人が受講する講習会や交流会の場を作る。
3	各地区の集まりで、区・自治会長に協力してもらい社会教育の話をする。

【例】

- ・コーディネーターに必要なスキル、ノウハウ等の情報を資料化する。
- ・講習会、交流会の実施
- ・各地区の集まりで、社会教育の話をする。

② 地域と同志社との連携

ア 地域住民と同志社の学生とのつながりを強化するための具体案

1	<p>学生にとって無償でも参加メリットを感じる体験機会を提供することにより、多くの学生に訴求し、持続的な地域との交流を促進する。単発の募集ではなく、同好会など、貢献意識の高い学生のネットワークを作り、継続的に活動し得る環境を目指すのが望ましい。学生個人よりも仲間と参加する方が活動参加の敷居を低くし得ると考える。</p> <p>地域として比較的容易に対応可能なイベントとしては、小中学生への指導体験、乳児子育て体験、介護体験、農業体験などはどうか？同好会としての継続的活動が軌道に乗ってくれば、学生との共同企画も進めていきたい。</p> <p>小中学生の指導体験では、スポーツなど専門スキルを要するものから遊びや宿題指導など気軽に参加できるものまで、学生の受け口を広げることが重要と考える。出産前に（あるいは男子学生にとって）育児体験を行うことは社会的にも重要であり、市民にとっても子育てストレスからの開放の一端になればと思う。介護体験も同様である。同志社周辺にも放棄農地や人手不足に悩まされる農家がある。IT やビジネスに興味を持つ学生が多いが、それだけでなく自然や生産の喜びを社会に出る前にこそ感じて欲しいと考える。</p>
2	同志社女子大学のまちづくり委員会と各自治会とで懇談等を行い、地域に入って活躍してもらう。
3	文化協会は、新島記念講堂で音楽祭を行っていた。現在も同志社女子大学の学生と交流がある。
4	同志社大学、市民参画課、社会教育課が連携して、放課後子どもプレンで行っているような学生の協力を他のまちづくりプランにも活用する方策を市が仲介して進める。
5	クローバー祭等で各地域が出店等を行う。 各地域の行事で若者の力が必要なことを企画し、学生ボランティアを募る。
6	住民と学生がともに興味を持っているカルチャー、アート、音楽等のイベントを企画し、学生に運営にかかわってもらうと交流も生まれるのではないか。 また、市の文化祭等に参加してもらいやすいように配慮する。
7	小中学生、幼稚園児を対象としたスポーツ教室が最も効果的であると考える。 同志社大学が所有している立派な施設で大学生からスポーツを教えてもらえる機会を数多く持つ。
8	大学の教員、学生、地域住民とも自分にメリットがなければ連携する必要性がない。 それぞれがどのようなことをしたいと思っているのかがわかる掲示板があれば良いのではないか。

9	クローバー祭で市がバス代を補助したのは非常に良いこと。 市民が同志社大学とのつながりを作れると思う。
10	同志社大学は、スポーツに関する部活、演劇、音楽など文系の課外活動がたくさんある。 スポーツに関しては、京田辺同志社スポーツ応援団を組織し、野球やラグビーなどをサポートしながら交流する。 また、文系の課外活動では、演劇・音楽・落語研究会などの発表の場を市民が積極的に提供する。

【例】

- ・学生がメリットを感じる体験機会の提供
 - ・持続的に交流を促進できる学生ネットワークを作る。
 - ・小中学生への指導体験、乳児子育て体験、介護体験、農業体験などを行う。
 - ・同志社女子大学のまちづくり委員会と各自治会とで懇談する。
 - ・新島記念講堂を活用する。
 - ・学生を同志社と連携していない市の事業に活用する。
 - ・クローバー祭等で各地域が出店等行う。
 - ・住民と学生がともに興味を持っているイベントを企画
 - ・学生に市の文化祭に参加してもらう。
 - ・学生が指導するスポーツ教室を行う。
 - ・教員、学生、地域住民それぞれがどのようなことをしたいのかがわかる掲示板を作る。
 - ・同志社で行うイベントへのバス代補助
 - ・京田辺同志社スポーツ応援団を組織する。
- 文系サークルの発表の場を市民が積極的に提供する。

イ 地域住民と同志社の先生とのつながりを強化するための具体案

1	広く一般市民を対象としたヒューマンカレッジとは別に、大学ならではの先端技術や最新の学会動向を踏まえたより専門的な講座により、地域に関わりの薄い現役世代を掘り起こしたい。時間を作つても受講意欲をそそる様な、よりニッチなテーマ（例えば、生成AIの理解と利用方法、温暖化と異常気象や豪災害など気象に関する講座、自動運転、宇宙開発、など、今話題になっている内容、講義だけでなくワークショップや電子工作、プログラミング実習などあってもよい）をタイムリーに企画する。できれば単発よりシリーズ化し市民間での異業種交流ができるれば望ましい。
2	市の施設で同志社の先生の専門性を生かした講座、講演会（一人の先生がテーマを掘り下げていく複数回の講座や複数の先生による連続講座、地域に関連したテーマで先生と郷土史家等が話す小さなシンポジウム等）を開催する。
3	「京たなべ・同志社ヒューマンカレッジ」、「京たなべ・同志社スポーツクラブ」など、規模の大きな事業が長年にわたって継続されていること、「京田辺・同志社サイエンスアカデミー」「同志社クローバー祭」など、すでに様々な連携事業が実施されている。今後も市が地域に周知し、連携していきたい。
4	市民向けの公開講座、イベント等を多く行う。 スマホの利用方法等、学生による高齢者へのデジタル指導を行う。

【例】

- 専門的講座やタイムリーな企画を行い、現役世代を掘り起こす。また、それらをシリーズ化し、市民間での異業種交流ができる機会を提供する。
- 市の施設で講座（複数回の講座や複数の先生による連続講座）を開催する。
市民向けの公開講座、イベント等の実施

③ 地域住民同士のつながり強化

ア 地域コミュニティへの参加を促すための具体案

1	学校行事、祭、清掃活動、防災訓練など、親や子どもにとってメリットのある参加率の高い行事を企画する。また、行事日は家族の予定を空けて参加することが多いと考えられ、単発行事で終わらせず、複数行事を詰め込む方が、つながり向上と、相乗効果による参加者増との両面から望ましい。少しずつでも地域住民間の対話やつながりを深めていきたい。
2	学生の力を借りたり、お金を使ったりして（参加賞、景品等）魅力あるイベントを開催する。
3	マジックショー、古典楽器（尺八、琵琶など）など子どもが喜び、ファミリーが気軽に参加できる事業を行う。
4	強制参加が無理なため、興味がある催しの調査から始める。
5	地域コミュニティに参加しない人は、経済的、時間的にしにくい人や都会的な感覚で地域と一定の距離を置きたいと考える人もいる。 それでも参加したくなるような魅力的な催しをきっかけにしたいところだが、価値観が多様化しており難しい。 防災時は地域住民のつながりが切実になるので、防災をテーマとした活動、催し等が良い。
6	子育て時期、定年後以外は地域住民同士のつながりは時間的に無理ではないか。 「老人会」「ママ友」の集まりで社会教育の必要性を話す機会を設けたり、コーディネーターが出かけたりして勉強会を行ってはどうか。
7	各地区の公民館を活用する。 高齢者等が有償で週3～4回公民館に常駐してもらい、地域の人のたまり場になったらよい。
8	参加を促すことも大切だが、地域の有志を中心に、奉仕や貢献できることを考えることも大切 新しく引っ越しをしてきた人は、様々な手助けが必要。地域コミュニティにお世話になったという環境をどのように作っていくのかが重要 「何かお手伝いしましょうか。」という呼びかけが地域のつながりを強化していくのではないか。
9	地域の高齢者の中には、様々な能力を持つ人もいる。 特に団塊世代は人数多く、過去に新しい感覚を持った世代なので良いと思う。 地域イベント等の参加には、仲間よりの声掛けをするようにして広めていく。

【例】

- ・メリットのある参加率の高い行事を企画する。
- ・1日に複数行事を詰め込む。
- ・魅力あるイベントの企画
- ・子どもが喜び、ファミリーが気軽に参加できる事業を行う。
- ・興味がある催しの調査
- ・防災をテーマとした活動、催しを行う。
- ・「老人会」「ママ友」の集まりで社会教育の必要性を話す。
- ・高齢者等が有償で週3～4回公民館に常駐する。
- ・「何かお手伝いしましょうか。」という呼びかけを行う。
- ・仲間よりの声掛けを行う。

イ 地域コミュニティに加入しない人を取り込むための具体案

1	<p>時代の流れとともに、役員の負担軽減が第一、役員になっても助け合える体制など一人に負荷がかからない仕組みづくりが急務と思える。</p> <p>新規参入者や役員を希望しない人には役員を免除するのも手だが、その場合仮に特定の人物に役員が偏ったとしても負担にならないよう役員業務の効率化が必須。</p> <p>また、その他自治会に参加しない理由を分析し、抜本的にそれらの障害を取り除く取り組みが必要である。</p> <p>一方、自治会への参加メリットが薄らいでいるのも事実で、共助、交流、共通課題対応などの本来の自治会メリットを明確にし、メリットが向上する様に各自治会の活動計画も見直していくことが急務である。</p>
2	まちづくり協議会と協働して各自治会単位で加入を呼びかける。
3	自治会に入らない理由として「メリットがない」といわれる。住民税を払っているので、ごみの収集はしてもらえるし、広報紙も手に入る。
	しかし、いざ災害等が起こったときは、地域住民同士が助け合うことが必要な場面が起こることが考えられるため、まさかの時のためにも自治会に入るべきだと訴えていきたい。
4	地域コミュニティを敬遠する人の理由（気持ち）を知ることが出発点になる。

【例】

- ・役員の負担軽減
- ・参加しない理由を取り除く。
- ・参加のメリットを周知する。
- ・加入を呼びかける。
- ・まさかの時のために入るべきだと訴える。
- ・地域コミュニティを敬遠する人の理由（気持ち）を知る。

同志社大学と京田辺市との社会教育のあり方について

	ページ
I テーマ	・・・ 2
1 地域に根差した大学、学びが溢れるまち	
2 地域や学校行事などを学生と共に盛り上げよう！	
3 京田辺歴史散歩	
4 Win-Winの関係づくり	
5 市全体を大学のプレ・インターナシップの場ととらえ、全市民の知的好奇心をレベルアップさせる学びの種をまく。	
6 同志社大学との地域連携～文化活動を通して～	
7 学生が地域の状況を知り関わることで実践的な学びを	
II 提案	・・・ 4
1 学生の社会課題解決	・・・ 4
① 地域の社会課題解決テーマを学生チームで担当	
② 自治会の活性化アイデア企画	
③ 学生と市民との交流、まちづくり参画とのマッチング、ガイドライン作成	
④ 子育てイベントへの参加、子どもと大人のつなぎ役など	
⑤ 地域おこし活動など実践的な学びを実施	
2 学生による講座	・・・ 6
① 学校カリキュラム内での出前授業、講義体験、幼児引率など	
② 留学生による出身国紹介、英語講座など	
③ 放課後子ども教室への学生協力	
3 大学の協力	・・・ 7
① 学生の募集、割当を行う組織を大学内に開設	
② 大学ホームページ、校内ポスターなどボランティアイベント参加をあっせん	
③ インセンティブ（単位認定、学内表彰等）	
④ 学生へ市からの実費支援	
4 市民向け講座	・・・ 8
① 既存講座、学生向け特別講座の市民への公開を制度化	
② 子育て世代向けの発達心理学や学校心理学講座	
③ 生涯学習を推進する市民講座開設（オンライン併用）	
④ 京田辺歴史散歩	
III その他のご意見	・・ 10
① 協議会の設置	
② 連携事業の精査と市民が希望する事業の立案	
③ 現在のつながりを継続	
④ 連携事業の広報と結果や成果を求める交流機会や支援機会の積重ね	

I テーマ

1	<p>地域に根差した大学、学びが溢れるまち</p> <p>同志社大学と京田辺市はこれまで長きにわたり連携を深めてきた。地域に根差した大学、学びが溢れる街の実現を目指し、さらなる連携を深めていきたい。</p>
2	<p>地域や学校行事などを学生と共に盛り上げよう！</p> <p>少子高齢化、コロナ禍の影響などから人のつながりが希薄になり、自治会未加入や子ども会不参加が目立つ昨今。災害にも欠かせない人のつながりや地域力は高める必要がある。</p>
3	<p>京田辺歴史散歩</p> <p>京田辺市と同志社大学との接点として、やはりこの地に共存しているということが重要なポイントだと感じている。京田辺市は縄文時代から続く長い歴史がある地域で、縁があり京田辺市に学問の府である同志社大学が来られた訳なので、この歴史と学問を介して交流が深まればと思う。 個別の具体的な連携を深めるのも大切なことだと思う。</p>
4	<p>W i n – W i n の関係づくり</p> <p>京田辺市と同志社大学の協力関係は、何をすればよいか分からず市民や学生も多い。そのためのマッチングをするコーディネーターを発掘することが必要で、市民と学生がお互いにW i n – W i n の関係を築くことが大事だと考える。</p>

5	<p>市全体を大学のプレ・インターンシップの場ととらえ、全市民の知的好奇心をレベルアップさせる学びの種をまく。</p>
	<p>大学は学生と市のマッチングを担い、市民の学びの場所を提供する。 市は学生が社会に出る前のプレ・インターンシップとして、発表機会・教える経験を提供する。 子ども達は学生から学び、将来の自分の姿を想像する。 その他親世代は子どもをとおし、子どもと話すきっかけとする。</p>
6	<p>同志社大学との地域連携～文化活動を通して～</p> <p>同志社大学と京田辺市には、学生が地域のお祭やイベントの担い手としてボランティアで参加することを奨励するような仕組みを作りたい。</p>
7	<p>学生が地域の状況を知り関わることで実践的な学びを</p> <p>持続可能な地域社会の構築に向けた政策形成を大学の授業、課外活動で実践して欲しい。</p>

II 提案

1 学生の社会課題解決

(1)	地域の社会課題解決テーマを学生チームで担当
	<p>近年、現役世代を中心とした若い世代と地域の関わりが希薄になっている。一方、若い時期の社会活動経験は、その後の人生の価値観や視野視点に大きな影響を与える。</p> <p>社会に出る前に、地域の住民や社会課題に触れ活動することは、学生にとっては大きな意義があると考える。継続的に学生と地域が関わる機会が提供できれば良い。</p> <p>直接地域住民と触れ合い、課題を設定し、そこから対策を生み出し実践する等、単発ボランティアでは得られない、より高い次元の社会活動を行うことで社会活動マインドの醸成に繋げたい。</p> <p>市内には、高齢者の生活、子育て、放棄農地、自治会活動の希薄化等、学生にとって手を付けやすい課題も多い。</p> <p>活動は、個人ごとの活動でも良いが、チームを形成し、協議しながら楽しみながら社会活動に取り組む方が、協働力を高めるとともに、活動の敷居も下げられると考える。</p> <p>彼らが学生時代を過ごしたこのまちを、関わった地域を、生涯故郷のように感じてもらえば光栄である。</p>
(2)	自治会の活性化アイデア企画
(3)	学生と市民との交流、まちづくり参画とのマッチング、ガイドライン作成

	<p>大学や学生側は、市民との交流やまちづくりへの参画で授業や人間形成に役立つとの考え方があると思われますが、何をすればよいのか分からず、市民、区・自治会も大学や学生に何をして欲しいのか、どのような依頼をすればよいのか分からずすることが根底にあると思われる。</p> <p>そのためのマッチングが重要であり、何らかのガイドライン的なものが必要であると考える。</p>
④	<p>子育てイベントへの参加、子どもと大人のつなぎ役など</p> <p>平日に子どもが学校内で学生と交流することで、新しい学びがあり、それを保護者に話すことで、自身は大学とつながりなくとも子どもと話すきっかけになる。</p> <p>幼稚園児や小学生向けのキャンパスツアーで子ども達に具体的な将来の姿を想像させることで、学ぶ意欲を向上させる。</p> <p>広い敷地内で親子の自然観察会（敷地内を散策して植物や虫などを観察する。）、ハリス理化学研究所助教による子ども向けフィールドワークや講演、市内幼稚園などへ大学生による出前講座（簡単な科学ショー、体と一緒に動かす遊び）を行う。</p>
⑤	<p>地域おこし活動など実践的な学びを実施</p> <p>大学や高校との連携事業は既に実施している。</p> <p>近年、地域の高齢化が進み、自治会の役員や民生委員のなり手不足、活動の収縮、地域の衰退等様々な問題が山積している。</p> <p>学生が地域の状況を知り関わることで、実践的な学びができるかなと思う。</p> <p>学生に地域の課題解決、地域おこし活動に参加してもらい、京田辺市だけでなく全国的な高齢化社会の将来を考えて欲しい。</p> <p>持続可能な地域社会の構築に向けた政策形成を大学の授業、課外活動で実践して欲しい。</p> <p>さらに若い人々が地域の自治活動に参加してくれることによって、将来的に彼らが積極的に自治活動に参加する地盤を作ることが重要だと考える。</p>

2 学生による講座

①	学校カリキュラム内での出前授業、講義体験、幼児引率など
	<p>おかえり先輩プロジェクトとして、市内出身の先輩を探して、母校で話をしてもらう。</p> <p>学生が社会に出る前のプレ・インターンシップとして、幼稚園、小中学校への出前講座（集中力を失いかけたときにやるといい運動、眠気に効く運動、心のバランスを壊しやすい思春期に乗り越えてきた経験談、心理学の学問的観測からのアプローチも含めた座談会、走り方講座、科学実験ショー、健康な体を作るための栄養学、簡単で効果的な筋トレ法等）として発表の経験や教える経験を提供してもらう。</p>
②	留学生による出身国紹介、英語講座など
	<p>留学生が小中学校で出身国紹介を行うことで異文化を知り、小中学生が日本について考えるきっかけにする。</p>
	<p>幼児から参加できる親子の簡単な英語プログラムを定期開催する。</p>
③	放課後子ども教室への学生協力
	<p>放課後子ども教室での学生の活躍を期待したい。</p>

3 大学の協力

①	学生の募集、割当を行う組織を大学内に開設
	<p>学生の社会活動(Social Work)機会提供について、特定のゼミの研究テーマとして活動するのも良いし、学内で運営を組織化し、全学生が自由参加できる活動でも良い。継続的に学生と地域がかかわる機会が提供できれば良い。</p> <p>学生の地域活動に協力できるよう、大学内で学生の募集、割当を行えるよう運営を組織化し、開設する。</p>
②	大学ホームページ、校内ポスターなどボランティアイベント参加をあつせん
	<p>大学に地域のお祭りや文化イベントを紹介したり、ボランティアの募集をしたりする告知・案内スペースの設置してもらう。</p> <p>(市内文化イベントの情報提供は、京田辺市文化協会が担う。)</p>
③	インセンティブ（単位認定、学内表彰等）
	大学に学生が地域のお祭りや文化イベントに参加するためのインセンティブ（単位認定、学長表彰等）を用意してもらう。
④	学生へ市からの実費支援
	市に地域活動の主催者に地域活動に参加した学生に交通費を支給することができる補助金を用意し、学生が地域活動に参加しやすくなる枠組みづくりを考える。

4 市民向け講座

①	既存講座、学生向け特別講座の市民への公開を制度化
	<p>ヒューマンカレッジは、広く一般市民を対象として学習機会が得られてきた。しかし最近では、現役世代から高齢者までの様々な世代において、幅広い専門知識やリスキリングが求められている。多様な個人ニーズに応じて、より自由に専門知識を得る環境の提供を目指す。既存の学生向けの講座でも良いし、最近話題の内容（生成AI、異常気象、自動運転、宇宙開発、世界経済、世界情勢等）を扱った特別講座でも良い。一般市民が大学を通じて学びを得る機会の提供を制度化することで、市民の学習意欲の向上につなげ、生涯学習マインドの醸成に貢献したい。</p> <p>学生と市民が肩を並べての受講や何らかの協働ができれば、世代間の交流機会にもなる。</p> <p>市民の能動的な学びや経験が、学生に対しても良い刺激となれば光栄である。</p>
②	子育て世代向けの発達心理学や学校心理学講座
	<p>親は発達心理学や学校心理学等を学ぶ講座を受講し、子ども（親と離れる年齢）は別室で学生と（心理）ゲーム等で遊ぶ。</p> <p>京田辺市には同志社大学という大きな強みがあり、市民への社会教育も、大学との連携強化がさらに良い効果をもたらすと考えます。</p> <p>しかし、主体はあくまでも市であり、市民、未来を担う子供たちを地域で育むことが大切なのではないだろうか。</p> <p>京田辺市として、社会教育においてどのような力を付けた市民が増えて欲しいか等により、大学との連携や講座の方向性も変わってきます。</p> <p>同志社大学との関係を上手に活用できるプランの策定と、市民のニーズにあわせた講座の参加から、社会教育の充実につなげてみてはどうか。今は、Zoom等の受講も可能であり、さらに展望が期待できる。</p> <p>人が変わっても継続して実施できるようなプランニングと啓発の継続事業とする。事業もブラッシュアップしながら、さらに良いものへと変えていくことが大切だと考える。</p>

④

京田辺歴史散歩

学問の府である同志社大学が京田辺市にあるので、歴史と学問を通して交流が深まれば良い。

同志社大学京田辺キャンパスには歴史資料館があり、天神山遺跡の出土品を展示されている。また、今出川キャンパスでは、1月～2月に展覧会「京田辺と同志社－考古学の世界から－」が開催されている。

一方、中央公民館展示室でも1月～2月に企画展「京田辺市の発掘成果展」(2015～2024)が開催された。

同志社大学の企画展示には、それに関わる専門の教授がいるだろうし、京田辺市の企画展には文化財担当の市職員が尽力されていると思う。

京田辺市の歴史を探訪する機会が、市、市民、大学、学生を含めて深くなれば有意義な連携になるのではないか。

「京田辺歴史散歩」として遺跡や古墳、神社仏閣などと大学の専門分野の先生、学生、文化財担当の市職員、市民が共に巡り、現地で解説を受けたり、市や大学の施設で講義を受けたり、交流できれば良いと考える。

もう一步進めてワークショップやシンポジウムなどの開催もできればより良い。

学ぶのは遺跡や古墳などの古代だけとは限らず、市内唯一の国宝の十一面観音像を安置する大御堂観音寺や重要文化財の酬恩庵(一休寺)はじめ歴史的な神社仏閣、名所、旧跡は枚挙にいとまがない。

また、京田辺市の歴史的な成り立ち、変遷を学ぶのも未来に向けて意義深いことだと感じる。

温故知新、古きを共に学ぶことでこれから京田辺市を考える地に足がついた交流が深まればと思う。

III その他のご意見

①	協議会の設置
	<p>同志社大学の組織、また、全体像についての情報量が足りないので、その点を明確にして欲しい。</p> <p>その上で、市全体として何をしていくかを議論集約して、市が関与して協議会を設置する。</p> <p>そこでお互いが進むべき対策を一つ一つ検討し、課題解決のために一つ一つ検討して答えを出していく。</p>
②	連携事業の精査と市民が希望する事業の立案
③	<p>現在のつながりを継続</p> <p>「京たなべ・同志社ヒューマンカレッジ」や「京たなべ・同志社スポーツクラブ」など規模の大きな事業が長年継続されていることは意義深いこと。</p> <p>また、夏休みに開催される「京田辺・同志社サイエンスアカデミー」や秋の「同志社クローバー祭」なども、大学と市民のつながりの中で運営する恒例行事として定着している。今後もこれらの行事を市民に周知し、活用して欲しい。</p>

<p>④</p>	<p>連携事業の広報と結果や成果を求めるない交流機会や支援機会の積み重ね</p> <p>大学が社会教育分野で地域と連携協働する際、一般的に言えば、施設開放や公開講座等の大学拡張・開放の展開が考えられる。</p> <p>高等教育機関である大学の教育施設・設備や研究教育機能は、まずもつて教員の研究活動や学生の教育活動のためにあることは言うまでもないが、地域に根差した大学の展開を考えるとき、ハード面、ソフト面での大学拡張・開放から一歩二歩と進むことが期待されている。</p> <p>せっかく個々の連携があるわけなので、こうした連携による展開が可能であることを大学と市民に広く知ってもらう広報等の一層の充実が求められるのではないか。</p> <p>また、何をするにせよ拙速に双方のメリットを求めるることは難しいため、既に展開している個々の連携のプラス面と抱える課題について検証することや双方が求めていることを丁寧にピックアップし、その実現や課題克服のために必要な条件や方法は何かを考えることが大事だと思う。</p> <p>そのためには、結果や成果を急いで求めるない交流機会を意識的に設けたり、支援したりする小さな積み重ねが必要ではなかろうかと思う。</p>
<p>⑤</p>	<p>これまでの連携の一部は確実に根付いている。</p> <p>これまで京田辺市と同志社大学・同志社女子大学との連携は行われてきており、その内容については不十分であるとか、散発的で持続性に欠けるとかの類の批判はあるとは思うが、一部確実に根付いているものもある。</p> <p>また、現市長が同志社大学出身なので、これまで以上に連携は進んでいくように感じる。</p> <p>この認識に立つと、社会教育委員会議で同志社大学にどのような要望ができるのかは大変難しい。</p>

1 同志社と京田辺市の連携

同志社と京田辺市は連携協力に関する協定の締結後、相互に協力して事業を開催しています。

主な取組として、京たなべ・同志社ヒューマンカレッジ、K D S C（京たなべ・同志社スポーツクラブ）の実施があります。

京たなべ・同志社ヒューマンカレッジは同志社に会場や講師の提供をいただいており、受講者は大学の講義同様の環境で受講できる機会をいただいています。

また、K D S Cの活動は、陸上・サッカーなどは大学のグラウンドを会場に、体育会の監督や学生に指導していただいている。子どもだけでなく大人向けの教室も開催いただいている。K D S Cの活動は、教室だけでなくその後サークル活動としても継続でき、同志社に講師、会場等の協力をいただいています。

令和6年度の京たなべ・同志社ヒューマンカレッジの京田辺市民受講者は213人、K D S Cの開催する教室の参加人数は約382人で、同志社に会場や講師等提供いただいているこれらの教室の参加人数は、京田辺市の人口の0.8%程度です。

さらに今年度、中央市民大学で同志社の先生に講師をしていただいたところ、受講生に分かりやすく講義していただくことができ大変好評でした。市民に専門的な講義を受講する機会を提供したことで、京田辺市での同志社の存在意義と市民の学習意欲を高めることにつながりました。

また、京田辺市では社会教育事業として小学校の放課後に体験学習を行う放課後子ども教室を行っていますが、学生サークル等に協力いただきダブルダッチやドッヂビーの開催ができました。学生に参画いただいたことで、子どもが活気づき盛況に事業を行うことができました。

2 同志社と京田辺市との今後の関係について

同志社と京田辺市との社会教育の分野での連携協力を引き続き継続していく
ただきたく、社会教育委員会議の思いを伝えさせていただきます。

(1) 地域に根差した大学へ

令和7年度京たなべ・同志社ヒューマンカレッジでは、同志社の学長と
京田辺市長との対談が実施されました。その中で学長が「リカレント教育
も大学が今後取り組むべき分野～人生の節目で学び直し、その後の人生を
豊かにするための学びを、今後は大学が積極的に提供していくべき」とお
話されていたとおり、市民へ学びの場の提供をより発展させていきたいと
考えます。

学生と市民が協働して取り組む能動的な学びを取り入れるなど、学生と
市民が共に学ぶ機会があれば世代間交流になり、学生と市民相互の学習
意欲の向上につながるのではないかと考えます。また、市民が日常生活
の中で思いついたときに、そこに探究の場があることは、市民の学びに
に対する意識を向上させることになると考えます。

(2) 学生の地域参画の推進

学生の地域行事への参画を進めていくとともに、幼稚園、小学校及び中
学校の児童及び生徒に教える体験を継続的に行う機会を提供することで
双方に深いつながりができるのではないかと考えます。

学生に地域に深く根差した活動をしてもらう機会を提供することで、京
田辺市にある同志社に通って良かったと愛着を持ってもらえることが私た
ちの願いです。

学生が小学校や中学校も含め、地域と継続的に関わり続けるなど、子
ども達にとって学生が身近な存在になるとともに、学生の立場からも京田
辺市が身近な存在となれば好ましいと考えます。

また、学生が地域の行事に関わり、地域の課題解消や再構築に向けた取
組を大学の授業や課外活動で実践することで、地域活動が縮小してい
る実情も含め体感して欲しいと考えています。地域に関わり社会活動
や研究の実践を行うことで、彼らが将来より大きな社会課題を解決し
得る人材へと成長する地盤をつくることになると考えます。